

2026年度 国公立大学・私立大学入試の分析

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 坂本 新一

新課程となってから2年目の大学入試を迎えた。出題側・受験生側ともに、手探りの状態だった初年度に対し、今後の方向性が見え始めてきたといえるだろう。

1 国公立大学入試

(1) 傾向と対策

思考力・判断力を重視し、史料やグラフ、図版の読み取りを求めるような出題傾向は、いっそう強まっている。また、ここ2年間の「歴史総合」の出題を踏まえると、過度に日本史分野の語句を暗記するのではなく、歴史を学ぶにあたっての考え方や手法を身につけ、史料やグラフ、図版に普段の学習から慣れ、時間軸や因果関係を踏まえて学習を進めていくという、当たり前の姿勢が求められることになるのだろう。以下、「歴史総合」の出題例を紹介し、分析したい。

(2) 「歴史総合」の出題例

●例題1 2026年度 一橋大学

次の資料は、1973年10月19日の『朝日新聞』朝刊に掲載された社説である（一部を省略のうえ、表記を改めている）。これを読んで下記の問いに答えなさい。（問1と問2あわせて400字以内）

十七日、アラブ側はついに石油戦略を発動、産油国はイスラエルを支持する米国およびその友好国を対象に、毎月5%の生産削減を決定した。石油危機が叫ばれている折柄、①この作戦が米国のみならず世界の経済・社会生活に与える影響は、時とともに計り知れぬ影響を及ぼして行くものと思われる。

現在のように需要が急増する一方の石油事情と、産油地域が中東に集中しているという状況を考え合わせれば、石油が政治的な武器として持つ力は、かつてないほど強まっている。それは陸、海、空三軍と並ぶ「第四軍」にも匹敵するものとして、西欧の有力紙は「石油軍」という言葉をこのほど造語したほどであった。

〔中略〕西欧は（同じく ②被害を受ける日本も含め）、アラブから与えられたこの時間を利用し、経済的な対策

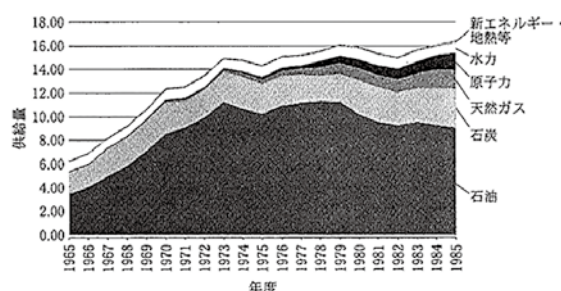
ばかりでなく、アラブ側の条件に対する政治的対策をも検討しなければならない。

（「発動されたアラブの石油戦略」）

問1 下線部①に関して、アラブ側が石油を「武器」に「この作戦」を用いるに至った直接的な契機について論じるとともに、その背景を第一次世界大戦の終結までさかのぼって説明しなさい。

問2 下線部②に関して、この「石油戦略」によって日本の経済とエネルギーをめぐる環境はどのような影響を受けたか、下の表も参照しつつ説明しなさい。

【表】 日本における一次エネルギー供給量の推移



注：縦軸（供給量）の単位は 10^{18} J（ジュール＝エネルギーの単位）
（資源エネルギー庁「エネルギー白書」をもとに作成）

解答例：

問1 直接的な契機は第4次中東戦争である。第一次世界大戦終結後、敗戦国となったオスマン帝国の領土であったパレスチナはイギリスの委任統治領となり、バルフォア宣言に基づき入植したユダヤ人と先住のアラブ人との対立が激化した。第二次世界大戦前後にユダヤ人がさらに流入する中、国際連合のパレスチナ分割案に基づきユダヤ人がイスラエルを建国すると、アラブ諸国との第1次中東戦争が勃発した。その後、資源ナショナリズムが高まる中で産油国がOPECを、第3次中東戦争の敗戦を機にアラブ諸国がOAPECを結成した。失地回復を図るエジプト・シリアが第4次中東戦争を起こすと、OAPECが石油戦略を発動した。問2 スタグフレーションが起こったことで高度経済成長が終わった。以後、エネルギー源として石油への依存を弱め、天然ガスや原子力の比重を高めた。省エネ化が進んだことで自動車などの分野で国際競争力を強め、安定成長下で経済大国となった。

例題 1 は、「歴史総合、世界史探究」と「歴史総合、日本史探究」の共通問題であった。**問 1** は、「歴史総合」にも記載があるとはいえ、「世界史探究」の学習を積んだ受験生の方が対応はしやすかっただろう。一方、**問 2** は「日本史探究」寄りで「歴史総合」の学習成果が問われるものであった。

こうした問題の対策として、日頃からさまざまなテーマの図表の読み取りに慣れておくといよい。『明解 歴史総合』p.181 の本文やグラフの内容だけでなく、p.172 では、コラム「世界の中の日本：日本にも広がった石油危機」で、「日本のエネルギー供給割合の変遷」というグラフが示されている。また、解答に必要な「日本の石油輸入先」についても、円グラフで示されている。『明解 歴史総合図説 シンフォニア』p.165 に、より詳細な供給量割合のグラフがあるほか、「世界のエネルギー消費の移り変わり」、「世界の CO₂ 排出量の推移」といった、さまざまな大学で出題が想定されそうなテーマについてのグラフも掲載されているため、目を通しておくといよい。

●例題 2 2026 年度 大阪大学：外国語学部

図 1 ギヤ『1808 年 5 月 3 日、マドリッド』（1814 年）



問 1 図 1 は、フランス軍によるマドリッド市民の虐殺を描いたものである。こうした出来事は、ヨーロッパ諸国とその住民にどのような影響を与えたか。図 1 が描かれた時期の状況をふまえて説明しなさい（150 字程度）。

解答例：

ナポレオン 1 世がヨーロッパの大部分に勢力を拡大すると、フランス革命で培われた自由主義やナショナリズムがヨーロッパ各地に広まり、同時にフランス支配への反対運動が高まった。図 1 のスペイン反乱と虐殺はナポレオンの大陸支配を動揺させ、ロシア遠征の失敗を機に各地で反フランス闘争が起り、諸国は解放戦争でナポレオンを破り退位させた。

写真提供：ユニフォトプレス

(3) 「世界史探究」の出題例

「世界史探究」の出題例として、図版を扱った論述問題を紹介しておきたい。

例題 2 で扱われているギヤの絵画は有名な作品であり、すでにこの作品についての知識を持っていることが望ましいが、図 1 の上に『1808 年 5 月 3 日、マドリッド』という絵画のタイトルが示されているように、ナポレオン戦争の時代のスペインと判断できるヒントは問題文中から読み取れる。

こうした問題に対処するためには、単に画家と作品名を覚えるだけでなく、絵画がどういった時代の姿を映したもののかなどといった考察を積んでいることが求められよう。『新詳世界史探究』p.202 では、ギヤのこの絵画だけでなく、ダヴィドの『ナポレオンの戴冠式』の絵画も並べ、「読み解き」として「ダヴィドとギヤはそれぞれどのような効果をねらって図 1、2 を描いたのだろうか」（※図 1 がダヴィドの『ナポレオンの戴冠式』、図 2 がギヤの『1808 年 5 月 3 日、マドリッド』）という考察をさせている。日々のこうした学習が、解答作成に寄与するだろう。

2 私立大学入試

(1) 傾向と対策

「歴史総合」については、関東の私立大学を中心として、相当数の大学が出題範囲としている。出題傾向としては大きく次の 2 点が挙げられる。それは、①「歴史総合」で扱う語句を 1 ～ 2 題問う形式（例：2025 年度の法政大学で「松方正義」を選択させたり、2026 年度の慶應義塾大学文学部で「平塚らいてう」を記述させたりする問題）、②史料やグラフ、図版を読み解かせ、歴史的思考力を測るような形式（例：2025 年度・2026 年度の慶應義塾大学経済学部（「日本史探究」と共通問題））である。今年度の慶應義塾大学経済学部では、世界恐慌期における日本の金輸出再禁止の理解が求められた。このうち①においては前年通りか、場合によってはやや問題数が減少することもあった。しかし、②のような入試問題については、単に日本史の語句を出題するというだけでなく、「歴史総合」で求められる歴史の学び方が身についているかを問うような、工夫した出題が見られた。

「世界史探究」については、新課程への移行以前から、共通テストの導入などを踏まえて思考力・判断力を問う出題が増加傾向にあり、今年度もその流れを踏襲している。その例として、2026 年度の立教大学の問題を取り

上げたい（例題3）。内容的には「世界史探究」の学習範囲だが、問題文は日韓国交正常化 60 周年についての新聞記事からの引用をもとにしている。

(2) 出題例

●例題3 2026 年度 立教大学：2月8日

尹錫悦氏罷免でどうなる東アジア安保 谷野作太郎氏が語る日韓の課題
(略)

——今年は日韓国交正常化 60 周年です。

この 60 年間、両国の間では様々な出来事がありました。2017 年に公開された韓国映画「1987、ある闘いの真実」では、⁶⁾民主化闘争に参加したソウル大学生の拷問致死事件を題材にしています。事件の現場は、当時の日本大使館の裏手にありましたが、私たちはそんな事件があったことすら知りませんでした。

(『朝日新聞デジタル』2025 年 4 月 4 日、抜粋)

6. 次の a～d は民主化闘争を含む様々な社会運動に関連する写真である。このうち、撮影された時期がもっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。

a.



b.



c.



d.



解答：d→b→a→c

写真提供：ユニフォトプレス／Getty Images／
AFP＝時事／サイネットフォト

4 枚の写真を、時系列で並べる問題である。a（天安門事件）と d（ワシントン大行進）の写真は比較的知名度の高いものであり、前者については『新詳世界史探究』p.333 でほぼ同一の写真が、後者については『新詳世界史探究』p.320 の「SDGs を考える世界史」というコラム中の「今なお続く黒人差別問題」に、やはりほぼ同一の写真が掲載されている。一方、b と c の写真は、写真から情報を読み取ることが求められており、予備知識だけで解答することはできない。b の写真では人々が「BLACK」「RACISM」という文言を掲げており、これだけでは d の公民権運動と見分けにくい。しかし、「GET OUT OF VIETNAM NOW」という文言からベトナム反戦運動であると判断できれば、1965 年にアメリカ合衆国が北爆を始めた後ということになるので、d よりも後の時期に b が来ると判断できる。c では民衆が掲げている文字の多くがアラビア文字であることに注目する。ここから、まずは西アジアを想定し、さらに掲げられている「Facebook」という文言から、SNS の時代になっていることを判断する。『新詳世界史探究』p.344 の「アラブの春」の説明での「携帯端末が民主化運動への参加を市民に呼びかける道具となり」や p.345 の「誰でも匿名で発信できる SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）は、発展途上国も含めてどこでも情報・言論空間を広げ、民主化運動を後押しすることもある」といった説明が、本問を解答するために寄与することだろう。また、『最新世界史図説 タペストリー』p.292 に、「アラブ世界を揺るがした『アラブの春』」という形で当時の各国の状況や、チュニジアで起こったデモの写真が掲載されており、教科書の学習をさらに深める上で有用である。